

学年	2	単位数	1	時間数	20	対象	林業
科目	森林・林業施策						
概要	我が国の森林・林業・山村施策、林業経済の概要を理解する						
背景・目的	我が国の森林・林業・山村施策の概要を理解し、森林整備・林業の担い手としての基礎知識を習得する。						
到達目標	森林・林業に係る行政施策の概要等を理解する。						

担当職員	★島根森林管理署・★伊藤勝久・★森林整備課各G
進め方	講義主体に行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・日本の森林・林業・山村政策	・森林、林業、山村政策及び経済の解説
2	講義	4	・林業経済学基礎	・林業の経済的な仕組みと近年の動向
3	講義	4	・森林計画制度（伐採届等を含む）、造林補助制度	・森林計画制度の概要、伐採届等の手続き ・森林整備事業と造林補助制度の概要
4	講義	4	・保安林・林地開発制度、治山・林道事業	・保安林制度、林地開発許可制度の概要 ・治山事業、林道事業の概要
5	講義	4	・国有林の政策（国有林の取り組み）	・県内の国有林の現況 ・重点取組事項
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
		80	10	10		
摘要						

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	情報処理Ⅱ						
概要	コンピュータを活用し、課題研究作成に役立てたり、林業分野で活用するための応用力を身につける。						
背景・目的	データ処理、プレゼンテーションを効率的・効果的に行うため、必要不可欠な技術である。						
到達目標	それぞれのソフトの操作を理解する。						

担当職員	★竹下由起子
進め方	各自がパソコンを操作して行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	12	・ワードプロセッサの基礎演習	・ワードでの文書作成
2	講義	12	・表計算ソフトの基礎演習	・Excelによる表の作成（計算）、グラフの作成
3	講義	8	・プレゼンテーションソフトの基礎演習	・PowerPointの応用操作 ・発表用資料の作成と発表
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「情報リテラシーOffice実践」(富士通オフィス機器株式会社)					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
			10	10	80	課題提出
摘要						

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	林業経理						
概要	森林組合や事業体等で経営・採算性等の実情を計数的にとらえる手法を学ぶ。						
背景・目的	企業会計の基礎となっている簿記の基礎を学ぶ。						
到達目標	簿記の基礎を理解する。						

担当職員	★佐藤博子
進め方	講義主体に行い、各時間ごとに演習問題を解き、理解度を確認する。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・簿記の基礎	
2	講義	4	・貸借対照表と損益計算書	・簿記の要素・純損益の計算等
3	講義	4	・取引と勘定	・分解と勘定記入等
4	講義	4	・仕分けと転記	・仕訳帳・総勘定元帳等
5	講義	4	・取引の記帳	
6	講義	4	・試算表と精算表	・種類と作成方法
7	講義	4	・決算	・決算の意味、手続き、報告
8	講義	4	・財務諸表の作成	・総合演習
9				
10				

テキスト (教材)	「新簿記」(実教出版株式会社)、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
			10	10	80	小テスト
摘要						

学年	2	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	経営実践						
概要	林業を生業としている森林組合や民間事業者の経営者等から、現状や課題、対応策を学ぶ。						
背景・目的	県内の事業者を知るとともに、それぞれの業種の経営に対する考え方を知る。						
到達目標	県内の事業者を知り、現状を理解する。						

担当職員	★県内林業事業者
進め方	必要に応じて事業者に足を運び、講義主体で行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・森林組合の経営	・経営方針、組織体制と運営、経営計画 ・事業ごとの実績、損益状況 ・経営改善、現場改善
2	講義	4	・育林事業者の経営	・経営方針、組織体制と運営、経営計画 ・事業ごとの実績、損益状況 ・経営改善、現場改善
3	講義	4	・素材生産事業者の経営	・経営方針、組織体制と運営、経営計画 ・事業ごとの実績、損益状況 ・経営改善、現場改善
4	講義	4	・製材所の経営	・経営方針、組織体制と運営、経営計画 ・事業ごとの実績、損益状況 ・経営改善、現場改善
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
		80	10	10		
摘要						

学年	2	単位数	1	時間数	24	対象	林業
科目	森林経営計画						
概要	森林経営計画の概要を学び、現地の情報収集を行い計画を作成する手法について理解する。						
背景・目的	採算性を高め、持続的な森林経営を維持していくための手段である森林経営計画について理解する。						
到達目標	森林経営計画の概要と作成手法を理解する。						

担当職員	森林整備課 森林計画G
進め方	講義主体に行い、森林経営計画を作成、発表する。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・森林経営計画の概要	・森林経営計画制度の概要と認定基準、優遇措置
2	実習	8	・森林情報収集 *6	・森林計画図、空中写真、森林GIS等による情報収集 ・地形、地質情報の収集
3	実習	8	・森林経営計画の作成	・間伐率の設定、搬出計画の作成 ・森林簿情報から計画素案を作成（パソコン使用）
4	講義	4	・作成した森林経営計画の発表	・作成した森林経営計画案の発表 ・森林経営計画案についての意見交換
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	60		10	10	20	小テスト
摘要						

学年	2	単位数	1	時間数	24	対象	林業
科目	提案型集約化施業						
概要	森林を集約化し、目標林型や施業方法を決定して収支計算を行い、提案書を作成する。						
背景・目的	利用間伐に限らず、主伐や伐採後の更新作業を含め、森林の集約化が必要である。						
到達目標	森林施業提案書を作成する。						

担当職員	★藤本信也・★日野原淳・嘉儀圭一
進め方	講義により提案型集約化施業を理解した後、実際の現場とその提案書にふれる。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・提案型集約化施業の意義と進め方、作業システム	・提案型集約施業の意義 ・森林施業プランナーの役割 ・森林施業提案書の作成
2	講義	4	・工程管理及び原価管理、提案書作成	・工程管理の必要性 ・原価計算の方法 ・提案書の作成
3	実習	8	・提案書現地視察、検証	
4	実習	8	・提案書現地視察、検証	
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「森林施業プランナーテキスト」(森林施業プランナー協会)、関係資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
	40		10	10	40	提案書
摘 要						

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	事業体経営						
概要	中小企業経営及び社会人になるうえで必要な項目等について学ぶ。						
背景・目的	経営に関する意識を高めるとともに、社会人としての基礎力を向上させる。						
到達目標	経営意識を高めるとともに、社会人として必要な力を身につける。						

担当職員	★足立修司
進め方	講義、演習（ケーススタディ）及びグループワークを中心に行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・経営学とは	
2	講義	4	・ビジネスモデル	・ビジネスモデルキャンパスとは ・ビジネスモデルキャンパスの作成手順
3	講義	4	・マーケティングの考え方	・マーケティングの考え方 ・マーケティングの活動の流れと具体的な行動 ・ターゲット市場、顧客の選定 ・マーケティングミックスの策定 ・SWOT分析
4	講義	4	・ファイナンス	・会計の基本、損益計算書と貸借対照表 ・損益分岐点の理解、資金繰りの理解 ・財務分析
5	演習	4	・ビスストーム	・ビジネスゲームで学ぶ経営の全体像
6	講義	4	・業務フロー、業務改善	・改善発想方法 ECRS
7	講義	4	・生産性の向上	・組織における人の重要性 ・組織におけるコミュニケーションの重要性 ・コミュニケーションの実践のために ・チームワークとは
8	講義	4	・総括	・企業の種類、個人・法人の特徴 ・許認可手続き、届出 ・クラウドファンディングとは ・消費税 ・プレゼンテーション

テキスト (教材)	「プレステップ経済学」(弘文堂)					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	80		10	10		
摘要						

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	事業体管理						
概要	基本となる「人間関係」について、実際の試験を交えて考察する。						
背景・目的	事業体を健全に運営するためには、組織の活性化が重要である。						
到達目標	より良い人間関係の作り方について、自分の考えを持つ。						

担当職員	★園田英之・★園田千恵
進め方	図書を精読するとともに、演習等により考え方をシェアし合うことを基本に進める。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・組織における労働とは	
2	講義	4	・人を動かす	
3	講義	4	・コミュニケーションスキル	
4	講義	4	・会社の存在意義	
5	講義	4	・インターンシップの振り返り ・リーダーとは	
6	講義	4	・雇用と委託、労働条件	
7	講義	4	・労働問題、人間関係、会社とのトラブル対処	
8	講義	4	・働き方改革を実現するために	
9				
10				

テキスト (教材)	「人を動かす」(D・カーネギー、創元社)、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
		80	10	10		
摘要						

学年	2年	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	森林情報						
概要	情報通信技術や様々な森林情報の活用技術を学ぶ。						
背景・目的	労働生産性の向上や安全性の向上に向け、地理空間情報やICT等の先端技術を森林管理や林業に活用する取組が進められており、今後飛躍する分野として活用できる人材が求められている。						
到達目標	GIS技術の概要を理解し、基本的なデータ加工・分析・活用することができる。 リモートセンシング技術の仕組みについて理解している。						

担当職員	★中村 尚・★岩村正信・西 政敏
進め方	講義、演習及び森林等での実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	森林情報活用	・森林における情報通信技術の活用 ・オープンデータの活用（標高データ外） ・インターネット地図の活用
2	講義	4	GISの基礎知識 * 6	・GISの構造 ・GISの機能 ・GISの種類
3	講義	8	QGISの概要と基本操作 * 6	・QGISの特徴 ・QGISの操作方法
4	実習	8	レイヤ操作、主題図の作成 * 6	・データの作成、属性による塗り分け
5	実習	4	QGISの応用 * 6	・各種データの重ね合わせ
6	講義	4	森林リモートセンシング技術の活用 * 6	・衛星画像解析技術の基礎 ・航空レーザー計測など最新計測技術
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	60	20	10	10		
摘要						

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	スマート林業						
概要	ICTや最新の機器を活用した森林情報の高度化、木材生産・流通段階に於ける効率化や情報共有化に資する技術を学ぶ						
背景・目的	森林施業の効率化・省力化や需要に応じた高度な木材生産を可能にするため、地理空間情報やICT、ロボット等の先端技術を活用した「スマート林業」の実現に向けた取組が必要とされている。ICT等の利用した先端技術のと森林管理や木材生産等への活用方法を学ぶ						
到達目標	林業・木材産業の各段階におけるICT等の先端技術を活用した取組の概要を理解する。 森林3次元計測システムの使用方法、UAVの安全な操作・データ活用方法を理解する。						

担当職員	★岩村正信・★千原敬也
進め方	講義及び森林等における実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・GNSS・GIS等を活用したスマート林業の推進*6	・スマート林業の取り組み状況 森林資源情報の高度化・共有化、生産性の向上・効率化、需給情報の共有
2	実習	8	・森林3次元計測システムの活用*6	・機器の特徴、機器の取扱い方、計測演習
3	実習	8	・森林3次元計測システムを用いた森林調査*6	・森林内での計測 ・計測データの分析
4	講義	8	・ドローンの活用、空撮*6	・基礎知識、法令、林業での活用法 ・基本操作、カメラ設定
5	実習	8	・空撮写真での三次元解析*6	・自動航行撮影、三次元化とオルソ画像作成
6				
7				
8				
9				

テキスト (教材)	関係資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	80		10	10		
摘要						

学年	2	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	木材利用Ⅱ						
概要	木質材料（合板、LVL、集成材、パーティクルボード等）の種類や用途、製造方法について学ぶとともに、防蟻、防腐、防火、接着等の木材加工について学習する。						
背景・目的	製材以外にも合板やバイオマス発電等、木材大量に供給する需要者があることについて理解する。また規格や品質について理解し、地域の需要に応じた仕分けができるようにする。						
到達目標	カスケード利用など木材循環について理解する。 木質材料・木質チップ等の利活用の現状及び加工方法について理解する。						

担当職員	★後藤崇志、石橋正樹
進め方	講義・実習及び製材工場等の視察により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	木質材料としての利活用	・合板・集成材・CLT・LVL等の特徴と用途 ・合板・集成材・CLT、LVL等の製造方法、技術
2	講義	4	木質バイオマスとしての利活用	・熱エネルギー利用、電力利用 ・木質チップ・おが粉等の利活用
3	実習	4	木材の加工 *4	・合板、木質バイオマス発電等の工場見学 ・原木の需要先が求める規格について
4	実習	4	くらしの中の木材利用 *4	・民間戸建住宅の建設現場見学
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	30	30	20	20	0	
摘要						

学年	2	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	木造建築						
概要	木造建築の歴史と技術、工法や性能など基礎知識を学び、実際の建築現場において木造建築の事例について学ぶ。						
背景・目的	伐採・搬出された原木が、どのように加工され、木造建築で活用されているかを理解する。 木造建築物の使用部材を知ること、保育施業の意義を再確認する。						
到達目標	木造住宅への木材の使われ方について理解する。						

担当職員	★中村正志、石橋正樹
進め方	講義及び現地視察により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	木造住宅の基礎材料	・部材の名称 ・構造・造作・下地に使用する樹種
2	講義	4	木造住宅の構造と特性	・工法（在来軸組・2×4・パネル等） ・木質環境と安全性（耐熱、耐震、調湿等）
3	実習	4	住宅建築	・様々な民間戸建て木造建築現場を見学し、現代における地域材利用のあり方を考える
4	実習	4	住宅環境	・古民家を改修した住宅展示場等を見学し、伝統的な木造建築技術について学ぶ
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	30	30	20	20	0	
摘要						

学年	2	単位数	2	時間数	40	対象	林業
科目	林業機械Ⅱ						
概要	コストを意識し、それぞれの現場に即した作業システムによる木材生産を学ぶ。						
背景・目的	安全を最優先にしたうえで、生産性及び生産コストの意識を高める。						
到達目標	コスト意識を高める。						

担当職員	★千原敬也、大塚 浩
進め方	講義及び森林内における実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	8	・労働生産性と生産コスト	・生産性、労働生産性、生産コストの基礎知識
2	講義	8	・コスト計算と工程管理	・簡易コスト分析シートの使用方法 ・簡易コスト分析シートを用いた試算
3	講義	8	・高性能林業機械作業システム * 8	・作業システムの基礎知識 ・作業事例
4	実習	16	・林業機械のメンテナンス（応用）* 7	・ハーベスタ、スイングヤーダ、フォワーダのメンテナンス
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「森林施業プランナーテキスト 改訂版」(森林施業プランナー協会)、生産性向上ガイドブック(林野庁)、架線集材の低コスト化を目指して(中山間C)、簡易コスト分析シート(中山間C)、作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	80		10	10		
摘要						

学年	2	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	採材技術						
概要	木材を高値で販売するために、必要な木取り、欠点などを学ぶ。						
背景・目的	木材の価格は、採材・木取りによって増減する。						
到達目標	高値販売のためのポイントを理解する。						

担当職員	★山形弘司
進め方	講義及び森林内、製材所における実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・丸太の見分け方	・木材の欠点と要因
2	講義	4	・製材用丸太の木取り、軸組工法	・用途別の木取りと歩留り ・在来工法(軸組工法)の各部名称
3	講義	4	・仕分け、選別と高価販売のポイント	・市場での仕分け方法、選別方法
4	実習	4	・現場での採材	・現地で採材を行い評価
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
		80	10	10		
摘要						

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	森林路網						
概要	森林作業道の路線計画及び設計に必要な知識を習得する。						
背景・目的	低コスト木材生産のためには、路網整備が重要である。						
到達目標	測量の手法、各種図面の作成方法を理解する。						

担当職員	★榎本賢朗
進め方	現地確認、現地測量後、各種図面を作成し、土量計算をする。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	実習	8	・ルート選定	・ハンドレベルにより勾配確認、林分確認の現地踏査
2	実習	8	・平面、縦断、横断測量	・踏査結果に基づくポケットコンパス、レベルを用いた現地測量
3	講義	8	・平面図、縦断図、横断図の作成	・現地測量結果に基づく図化作業
4	講義	8	・設計、土量計算	・測量成果に基づく設計および数量計算
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
		80	10	10		
摘要						

学年	2	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	資格取得（外部2）						
概要	労働安全関係の各種法令に基づく内容及び時間数とする。						
背景・目的	機械を安全に使用するための知識・技術を習得する。						
到達目標	各種機械の安全な使用方法を理解する。						

担当職員	★大国隆二・西 政敏
進め方	各種資格の主催団体（外部委託）で実施する。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	学科	7	フォークリフト運転技能講習	・フォークリフトに関する知識 ・フォークリフトの操作方法
	実技	4		・実技会場での実技講習
2	学科	5	狩猟免許（わな）	・鳥獣保護法の概要 ・鳥獣の保護及び管理に関する知識 ・猟具の取り扱いに関する知識 ・鳥獣に関する知識
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				

テキスト （教材）	外部委託の団体が指定する教材を購入					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘 要
			50		50	資格取得
摘 要						

学年	2	単位数	1	時間数	16	対象	林業
科目	育林技術Ⅱ						
概要	林業生産における目標林型の設定と間伐技術について理解する。						
背景・目的	間伐の指針、選木から伐倒までの技術、作業システム、施業体系における間伐の整理を通して、目標とする森林の姿のイメージ化、長期的な森づくりのプランニングについて理解する。						
到達目標	将来の目標林型と間伐効果について理解を深める。						

担当職員	大塚 浩
進め方	講義主体に行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・間伐の基礎知識と応用、作業技術	・間伐の基礎知識 ・間伐の進め方 ・間伐の作業技術
2	講義	4	・目標林型とその理論	・林種 ・森林の発達段階 ・目標林型の求め方
3	講義	4	・コンテナ苗、低密度植栽及び一貫作業*5 ・人工林収穫予想表の見方と活用	
4	講義	4	・長伐期施業、複層林施業及び広葉樹林施業	・長伐期施業の概要 ・複層林施業の概要 ・広葉樹林施業の概要
5				
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「高性能林業機械による利用間伐の手引き」(島根県林業改良普及協会)、「島根県人工林収穫予想表(平成23年4月発行)」(島根県)、「間伐と目標林型を考える」(全国林業改良普及協会)					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	80		10	10		
摘要						

学年	2	単位数	2	時間数	32	対象	林業
科目	森林保護						
概要	森林における病虫獣害について、その防除方法、対処方法について学ぶとともに、庭園木管理について学ぶ。						
背景・目的	健全な森林造成のため、病虫獣害による森林被害について理解する。						
到達目標	代表的な病虫獣害による森林被害の特徴及びその防除法を理解する。						

担当職員	★陶山大志・★田中友梨・★安達直之・★小沼仁美
進め方	講義及び実習により行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	4	・森林病害虫の概要 ・林木の虫害の診断と防除 ・農業の取扱い	・被害とは、病虫獣害名の判定、防除方法 ・スギカミキリ、スギザイノタマバエなど ・
2	講義	4	・林木の病害の診断と防除	・マツ材線虫病（松くい虫） ・ブナ科樹木萎凋病（ナラ枯れ）
3	実習	8	・松くい虫（及びナラ枯れ）被害木駆除	・松くい虫（及びナラ枯れ）被害木の診断 ・被害木の伐倒、くん蒸処理
4	講義	8	・野生鳥獣被害の診断と防除	・野生鳥獣による被害と対策 ・ニホンジカ、イノシシ、サル、クマ、ヌートリア
5	実習	8	・ニホンジカ被害地調査（被害対策）	・林木被害調査 ・捕獲：足くくり罠 ・予防：ツリーシェルター、金網柵、ネット柵
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)	「狩猟読本」(大日本猟友会)、「冊子鳥獣被害診断と防除マニュアル」(島根県農林水産部)、関係資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	60	20	10	10		
摘要						

学年	2	単位数	14	時間数	478	対象	林業
科目	専攻実習Ⅱ						
概要	各科目の学科等で学んだことを現地で実践する。						
背景・目的	林業技術の向上と経営能力を養う。						
到達目標	基礎的技術を身につける。						

担当職員	専攻スタッフ等
進め方	教室内での演習、先進地等の視察、森林等における実習で行う。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	実習	24	・育苗 *5	普通苗・コンテナ苗、播種・挿し木、苗畑管理
2	実習	86	・育林 *2	地拵え、植栽、下刈り、除伐、枝打ち、間伐
3	実習	16	・測樹	・標準地調査、毎木調査
4	実習	16	・測量	・周囲測量（アナログ・デジタルコンパス）
5	実習	96	・林業機械 *3	・手工具、刈払機、チェンソー、ミニバックホー
6	実習	104	・高性能林業機械 *7, 8, 9	・ハーベスタ、スイングヤーダ、フォワーダ
7	実習	32	・架線	・集材機、スイングヤーダ
8	実習	32	・森林作業道	
9	実習	24	・労働安全衛生 *10、1	
10	実習	24	・森林保護	・病害虫伐倒駆除 ・庭園木の管理
11	実習	24	・スマート林業 *6	・GIS、GPS、UAV

テキスト (教材)	作成資料					
評価基準	1. 定期試験 (%)	2. レポート (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
			40	20	40	技能
摘要						

学年	2	単位数	4	時間数	128	対象	林業
科目	卒業論文						
概要	専攻実習で学んだ成果を参考に、課題設定から調査方法を検討し、技術的・経営的課題として取りまとめる。						
背景・目的	1年間で学んだ内容から、興味をもった、また、疑問に思ったことについて、調査、取りまとめを行う。						
到達目標	自ら設定した課題について、調査、研究を行い、発表をとおして、情報発信を行う。						

担当職員	専攻スタッフ等
進め方	校内、校外での実習、調査を通じて、論文に取りまとめる。

授業計画	授業形態	時間数	テーマ	講義内容
1	講義	8	・卒業論文の課題設定	・卒業論文課題設定 ・卒業論文課題発表会
2	講義	8	・課題解決のための研究計画作成	・卒業論文研究計画の作成
3	実習	40	・研究計画に即した調査	
4	講義	48	・研究結果の取りまとめ	・卒業論文の作成 ・卒業論文抄録の作成、発表要旨の作成
5	講義	24	・卒業論文発表	・卒業論文発表会 ・卒業論文の提出
6				
7				
8				
9				
10				

テキスト (教材)						
評価基準	1. 発表会評価 (%)	2. 論文内容 (%)	3. 出席 (%)	4. 態度 (%)	5. その他 (%)	摘要
	40	60				
摘要	提出書類：卒業論文本文、卒業論文抄録、卒業論文発表会 発表要旨					